－夏季大学雑感－

第18回夏季大学『新しい気象』講座雑感

財団法人　日本気象協会北海道支社　小林利章

第18回夏季大学『新しい気象』講座が7月26日、27日に開催され、33名の方々に参加いただき、盛況裡のうちに今年も無事終了しました。例年は2日目の講義が札幌管区気象台で施設見学も兼ねて行われていましたが、有珠山噴火の対応のため、北海道大学低温科学研究所で開催しました。

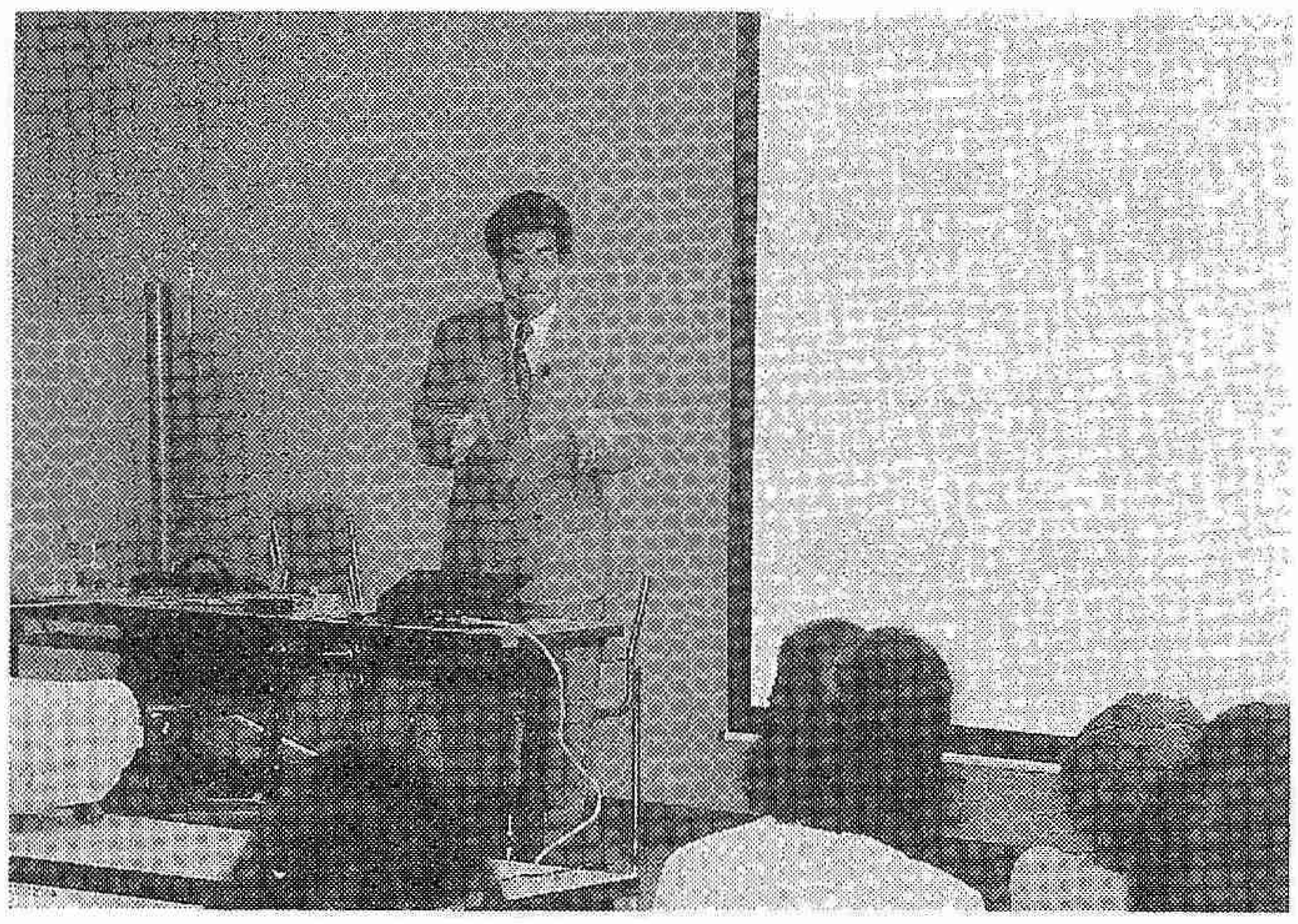
初日は札幌市青少年科学館で「今冬の北海道の気象経過」（講師：若林正夫札幌管区気象台気候調査課予報官）、「お天気キャスターの裏話」（講師：小島修（財）日本気象協会北海道支社）の講義を行いました。

若林講師は冬期の気象特性をわかりやすく説明していただきました。特に、今冬の降雪、気温の特徴を過去と比較したため、今冬の特徴を理解していただいたと思います。また、小島講師は北海道の特徴ある気象や日常生活に欠かせない身近な気象現象についてユーモアを交えて話をしていただきました。

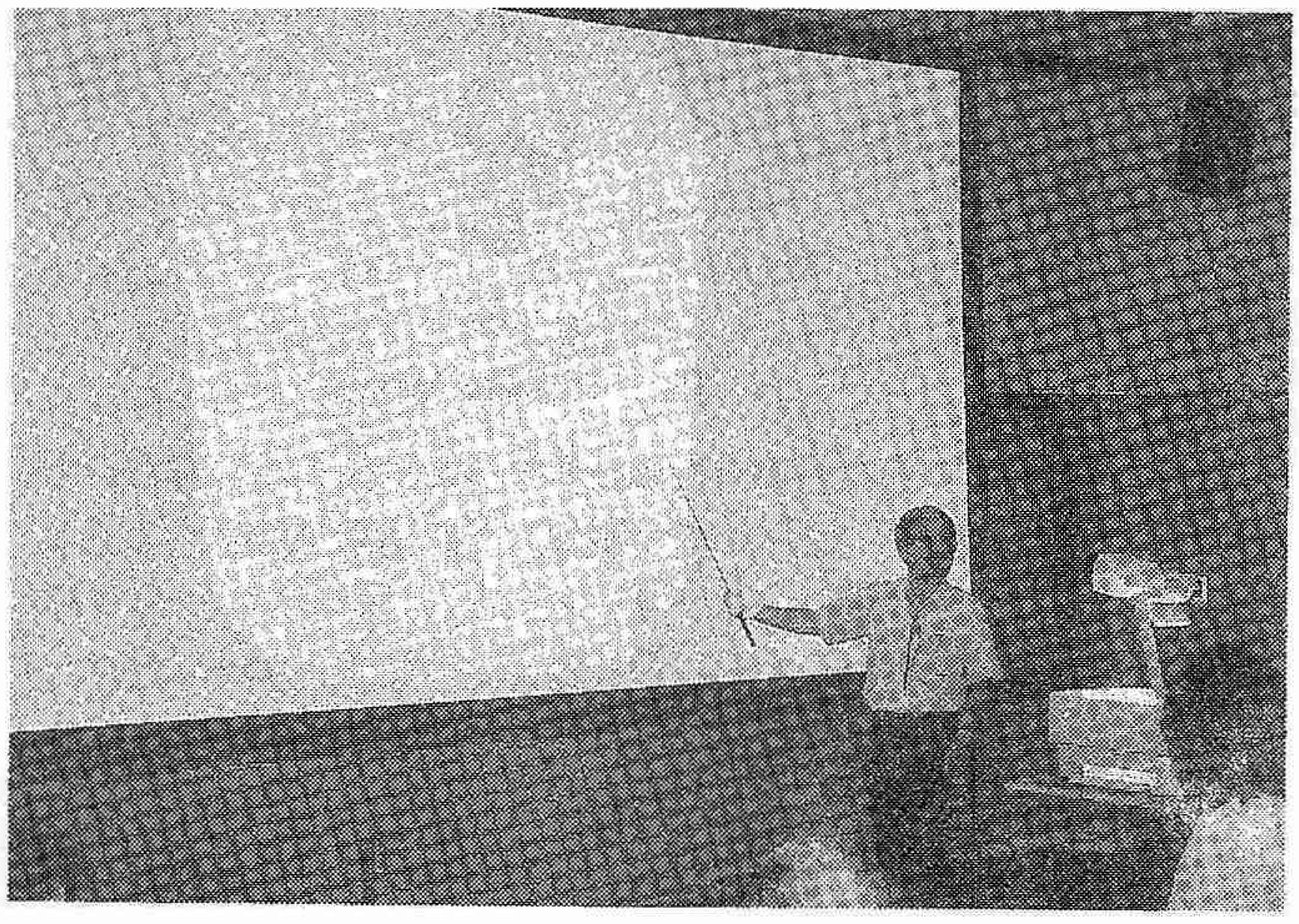
2日目は3月31日に23年ぶりに噴火した有珠山の火山活動を取り上げた「有珠山噴火の歴史と2000年3月の噴火活動の推移」（清野政明北海道大学大学院理学研究科地震火山研究観測センター研究支援推進員、元気象研究所火山研究部長）と「森林と気象」（原登志彦北海道大学低温科学研究所教授）の講義が行われました。

清野講師は有珠山噴火のこれまでの活動の概要、前回噴火活動との比較などを取り上げられました。本当にホットな話題として三宅島の噴火活動についても言及され、質疑も活発に行われその注目の高さを改めて感じました。また、原講師は森林の成長に与える気象の影響やご自身の研究の一端を披露していただき、森林と気象の深い結びつきを理解されたのではないかと思います。

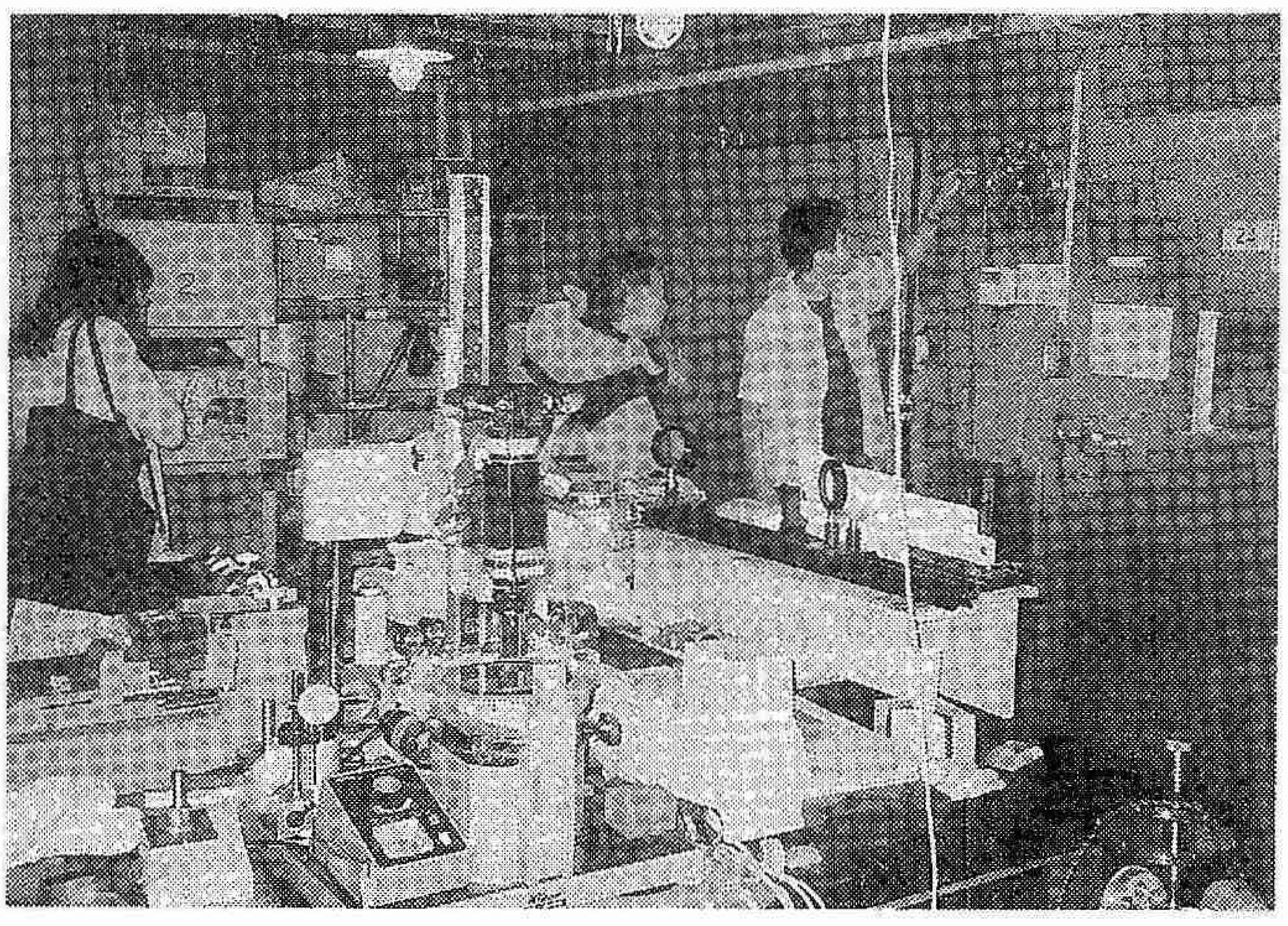
最後になりましたが、今回の講座開講にあたりまして、会場の準備や施設見学の解説等をあたられた青少年科学館、北海道大学低温科学研究所の皆様に、この紙面を借りて厚く御礼申し上げます。



受講風景
（札幌市青少年科学館）



受講風景
（北海道大学低温科学研究所）



見学風景
（北海道大学低温科学研究所）